

2025 年度

地区サポーター 活動報告書

浜田市 地域政策部 まちづくり社会教育課

目次

1.地区サポーターの概要	1
目的.....	1
役割.....	1
2.地区サポーターの配置	2
3.活動報告	3
01 とうがねまちづくり推進委員会 河内 紀美恵	3
02 美川地区まちづくりネットワーク 塚本 良治	5
03 雲城まちづくり委員会 岡本 博美	7
04 小国まちづくり委員会・波佐まちづくり委員会 宮本 晃成	10
05 今市地区まちづくり推進委員会 藤本 宏征	14
06 弥栄のみらい創造会議 岡山 真梨	16
07 岡見地区まちづくり推進委員会 齋藤 玲子	19
08 三保地区まちづくり推進委員会 森井 照美	21
09 三隅地区まちづくり推進協議会 早川 良子	23
10 黒沢まちづくり委員会 杖田 早由里	25
11 まちづくり推進委員会 INO 三浦 聖二	28
4.浜田市集落支援員設置要綱	31

1. 地区サポーターの概要

目的

人口減少・少子高齢化が進む中、地域の課題解決や活性化を図るため、地区まちづくり推進委員会が担う役割が高まっています。

一方で、事業の内容が複雑・高度化し、事務的な負担が課題となっていたことから、事業を持続的に実施するため、きめ細かな支援を行う地区サポーター(集落支援員)を配置し、事務支援等を行う「地区サポーター設置事業」をスタートしました。

本事業は、令和6年度の試行実施を経て、令和7年度から本格実施しました。

～集落支援員(国の制度)とは～

地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウ・知見を有した人材が、地方自治体からの委嘱を受け、市町村職員と連携し、集落への「目配り」として集落の巡回、状況把握等を実施

- ・ 地方自治体の委嘱により「集落支援員」を設置。
- ・ 集落支援員は、市町村職員とも連携し、集落への「目配り」として、集落の巡回、状況把握等を行う。

役割

地区まちづくり推進委員会からの推薦を受け、市の会計年度任用職員として地域と連携しながら、以下の業務を遂行します。

(1)事業支援・事務支援

地区まちづくり推進委員会や有償ボランティア団体が取り組む事業のサポート

(2)地域実態の把握

地域の困りごとや支援ニーズ、支援が必要な人の把握

(3)まちづくり計画の策定更新支援

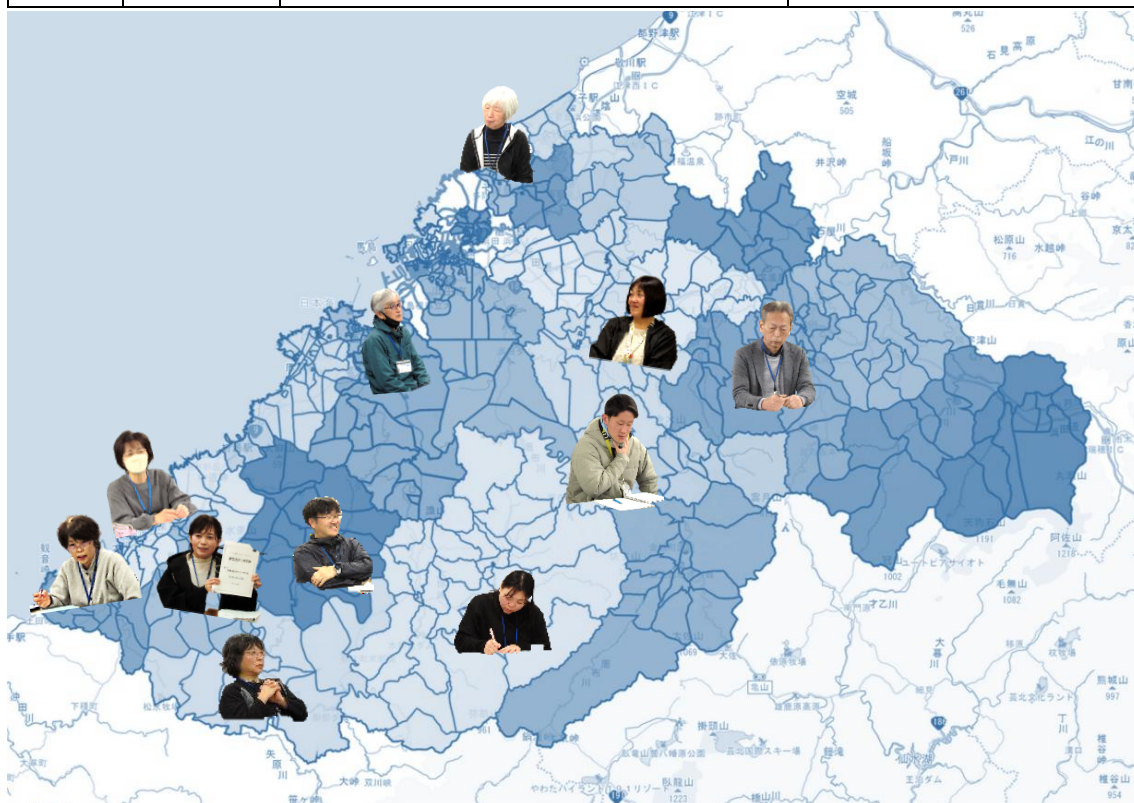
地域における将来ビジョン、事業計画等の策定支援

(4)取組体制の確立

部会(まち委)、有償ボランティア団体の設立推進

2. 地区サポーターの配置

No.	地域	配置団体	氏名
1	浜田	とうがねまちづくり推進委員会	こうち きみえ 河内 紀美恵
2		美川地区まちづくりネットワーク	つかもと りょうじ 塚本 良治
3	金城	雲城まちづくり委員会	おかもと ひろみ 岡本 博美
4		小国まちづくり委員会 波佐まちづくり委員会	みやもと こうせい 宮本 晃成
	旭	今市地区まちづくり推進委員会	ふじもと こうせい 藤本 宏征
	弥栄	弥栄のみらい創造会議	おかやま まり 岡山 真梨
7	三隅	岡見地区まちづくり推進委員会	さいとう れいこ 齋藤 玲子
		三保地区まちづくり推進委員会	もりい てるみ 森井 照美
9		三隅地区まちづくり推進協議会	はやかわ りょうこ 早川 良子
10		黒沢まちづくり委員会	つえだ さゆり 杖田 早由里
11		まちづくり推進委員会INO	みうら せいじ 三浦 聖二



3. 活動報告

地区サポーター 河内 紀美恵

地域の状況(R8.2.1 現在)

人口: 1,569人
世帯数: 758世帯
面積: 69.06ha
高齢化率: 35.56%

- 1 勤務地
国府まちづくりセンター
- 2 配置年月
令和 6年 6月～
- 3 活動内容

活動項目	具体的な活動内容
事業の企画、各種調整	お出かけバスの調整、運営 課題解決特別事業の支援
事務全般	あいのり交通運営協議会の開催、運営 会計事務の補助 住民のニーズ把握

4 活動の状況と成果

(1) あいのりタクシー事業の利用拡大

定期便のバスの中が遠足気分のようなとの利用者からの声があり、利用者増に繋がるよう、親睦を深めるための少し遠出の企画を運営協議会に提案し実現した。4月には金城へいちご狩り、7月には美川扇原茶園へピザ作りを実施し、現在会員登録者数は59名、バス利用者は全体で約25名、毎月12名前後の方が定期便を利用している。

浜田養護学校中学部の生徒さんが、お出かけバスのことに関心をもたれ、9月の定期便に同行してもらった。高齢者との交流で感じたことを、素敵なお礼状として頂き、利用者の方々も大変喜んでおられた。



(2) 課題解決事業の取組支援

今年度も唐鐘環境保全係を中心に唐鐘川水質浄化活動として Hi ビーズの人力覆砂を実施し、取組への支援を行った。今年度で事業は終了となるが、現場での作業をサポートしていると、周辺住民の方々から「少しずつ臭いが消えている」などのうれしい言葉を聞き取る事ができた。大変な作業にもかかわらず、声を掛け合いながら、一生懸命作業されている関係者のみなさんの姿に頭が下がる。



5 今後の課題と目標

お出かけバスで養護学校の生徒さんとの繋がりができ、利用者の方々の楽しそうな様子を見て、それを高齢者クラブのみなさんとの交流に繋げていければと思っている。毎月一回行っている唐高会サロンに参加しお手伝いをしている中で、色々な事を聞き取り、子どもたちとの触れ合いに興味を持たれている様子を感じた。唐高会サロンの中での生徒さん達との交流を、養護学校の方へ提案し、来年度に向けて良い繋がりになるようにしていきたいと思っている。

来年度も少し遠くまで足を延ばすお出かけバスの運行を運営協議会で検討し、利用者に喜んでもらえるあいのりタクシー事業にしていきたい。

地域からの声

主にあいのり交通事業の事務局を務めてくれて、住民からの声を反映できるような限りの改善を図り、企画運営の主体を担ってくれている。

浜田養護学校と地域との橋渡し役を務めてくれたり、Hi ビーズの埋設事業も積極的に支援してくれたり、あいのり交通事業の他にも今年度は唐高会のサロン活動、各種地域イベントの仕入れ業務など多岐に渡ったサポートを担ってくれた。

今後も多岐にわたる支援の継続をお願いしたいと思っている。

02 美川地区まちづくりネットワーク

地区サポーター 塚本 良治

地域の状況(R8.2.1現在)
人 口: 1,517人
世 帯 数: 787世帯
面 積: 3413.48ha
高齢化率: 47.92%

1 勤務地

美川まちづくりセンター

2 配置年月

令和7年4月～

3 活動内容

活躍項目	具体的な活動内容
事業の企画、各種調整	あいのりタクシーの運営、調整 課題解決事業のサポート
事務全般	あいのりタクシーの運営、会計事務 美川ネットの事務のサポート 住民ニーズの調査、把握

4 活動の状況と成果

(1) あいのりタクシー事業の運行開始

地域公共交通の減便等による不便を解消し、高齢者の外出を支援するため、9月より運行を開始した。徐々に利用人数も増えてきている。利用内容については、一考するものもあるが、まずはより多くの地域の方々に周知する期間とし、各団体等への口コミや広報活動を通じて利用促進を図る。



(2) 課題解決事業の取組支援

事務局としての広報紙・チラシ・ポスターの作成、活動支援など以下の業務に取り組んだ。

- ・美川夏まつり:会場の草刈り、当日の受付や撮影、広報紙作成。
- ・地域環境美化活動:現場撮影、広報紙作成。



5 今後の課題と目標

- ・あいのりタクシーの会員登録性や定期便を検討し、利用者数の増加を図る。
- ・美川地域においても高齢化による各団体活動の低下や、世代交代等の問題があり、美川の将来を地域全体で考えていく必要がある。そのため、美川ネットワークを中心に連携体制を強化する活動を、サポーターとして継続的にサポートする。

地域からの声

○4月から地区サポーターを配置していただいたことで、身近な地域の要望を受ける窓口ができました。

○地域における人口減少の影響で、公共交通路線の減便・廃止を余儀なくされ、交通不便や生活への支障を訴える声が地域課題の大きなものの一つに挙げられてきました。

そうした中、地区サポーター会議において各地区のまちづくり推進委員会があいのりタクシーを積極的に活用されている報告を聞き、美川地域でも導入してみたいとの思いに至りました。

9月からあいのりタクシーの運行を開始し、地域の方より「大変助かっている」「行動範囲も広がり楽しみも増えた」との声をいただいています。より多くの地域の方に利用していただければ、地区サポーターと内容を協議しながら広めていければと思います。

○これまで美川ネットワークの事務所には職員が常駐していませんでしたが、美川まちづくりセンターに地区サポーターが配置されたことで、申請書等の受付などネットワークの窓口として効率化を図ることができています。

○来年度は事務処理の一部を地区サポーターに担ってもらう予定であり、業務の負担軽減につながるため、大変助かります。

03 雲城まちづくり委員会

地区サポーター 岡本 博美

地域の状況(R8.2.1 現在)
人 口: 2,180人
世 帯 数: 1,037 世帯
面 積: 3339.44ha
高齢化率: 37.20%

1 勤務地

雲城まちづくりセンター

2 配置年月

令和 6 年 4 月～

3 活動内容

活動項目	具体的な活動内容
事業の企画、各種調整	あいのりタクシーの調整、運営 イベントの企画、運営
情報発信	チラシの作成
事務全般	会計事務(まちづくり総合交付金、補助金関係) 住民ニーズの把握

4 活動の状況と成果

(1) 「スポーツ団体交流会」の実施

雲城地区で活動しているスポーツ団体(金城ジュニア陸上教室・金城少年野球クラブ)とポルセイド浜田の選手、ポルセイド浜田アカデミーが参加し、昼食には保護者の作った炊き込みご飯と豚汁を食べ、午後はふれあいジム・かなぎに移動し、様々なスポーツを通じて親睦と交流を深めることが出来た。

この事業を進めるにあたって、ポルセイド浜田、各団体、まちづくり委員会の日程調整、当日の進行等を行った。



(2) 「祝卒業カフェ」の実施

金城中学校の卒業生と卒業までにお世話になった地域の方々が、これまで交流してきた3年間を振り返り、お互いに感謝の気持ちを伝えあうと共に、子どもたちの卒業を地域でお祝いした。地元食材を使用したカツカレーを食べた後、フルーツタルトのデコレーションもみんな楽しそうに体験していた。将来こんな金城になったらいいなと思うことを子どもたちに自由に書いてもらったが、たくさんの素晴らしい言葉が書いてあり、みんなの金城を大切に思う気持ちがとても嬉しかった。来年度、スタッフの協力を呼びかけたところ、8名が賛同してくれた。

今年は当日スタッフ3名(島根県立大学)、黒板アート(島根大学)で大学生4名の協力をお願いし、大学連携補助金を活用して充実した事業となった。



5 今後の課題と目標

少しずつではあるが、頼まれたからまちづくりの事業に参加する、協力するという感じから、自分たちも参加したい！！という人が増えてきているような気がする。まだ若者の自発的な参加は少ないが、来年度は楽しそうだから参画、参加してみようかなと思ってもらえるコミュニケーションの場を設けるなど、新たな取り組みをしたい。

地域からの声

地区サポーター2年目の勤務となり、仕事もしっかりしておられ、積極的に仕事に関わろうとしているように感じます。まちづくり交付金やあいのりタクシーの利用方法など質問しても適切に答えてもらいました。

また、まちづくりセンターの来客者に対しても明るく接しており、皆さんからも慕われているように感じます。

これからもまちづくり委員会の活動を支援し、活発なまちづくり活動に寄与してもらうことを期待しています。

04 小国・波佐まちづくり委員会

地区サポーター 宮本 晃成

1 勤務地

小国まちづくりセンター

2 配置年月

令和 7年 10月～

3 活動内容

活動報告	具体的な活動内容
事業の企画、各種調整	課題解決事業の支援 スマホ教室の開催、運営
情報発信	SNS(インスタグラム)、チラシ作成
事務全般	まちづくり総合交付金事務

波佐地域の状況(R8.2.1 現在)

人口: 371人
世帯数: 197世帯
面積: 5665.60ha
高齢化率: 58.22%

小国地域の状況(R8.2.1 現在)

人口: 143人
世帯数: 78世帯
面積: 2068.21ha
高齢化率: 69.93%

4 活動の状況と成果

(1)課題解決事業の支援

今年度の課題解決事業として桜公園の整備に取り組んだ。

桜公園は平成 25 年度に住民が植えた桜を保全し、郷土愛を育むイベントとして整備した思いの強い場所である。だが、その一方で整備不良により安全面に不安があった。

今回の工事で公園内の凹凸を整地し、歩行に不安のある高齢者や小さな子どもでも安心して歩けるように整備した。

その中でも健生会(高齢者クラブ)が長年桜公園を守ってきたので、健生会の声を大事にしながら何度も話し合いを重ね看板作成などを行ってきた。

4 月には地域住民と保育園でのお花見を予定している。



(2) スマホ教室の開催、運営

デジタル推進委員の活動の一環として、スマホ教室を2回開催した。

1回目は「スマホで小国の情報を見てみよう！」と題し、インスタグラムで小国の情報がみられるように取り組んだ。小国の情報を発信して行く中で、地域の方々にセンターで何が行われているか知ってもらうために行った。

2回目は「オンラインショッピングについて学ぼう！」と題し、Amazon、楽天市場などについて学んだ。小国地域に唯一残っていた商店も無くなり、買い物をする時は遠出をしないとイケない。そんな中でお店に直接行かなくても買い物ができる便利さを知ってもらうために行った。

1回目、2回目それぞれ6名(60代～70代)の方に参加いただいた。難しかったが、勉強になったと声をいただいた。

スマホが楽しくなる♪
みんなのスマホ教室！
2回開催します！

スマホで小国の情報を見てみよう！

日時 1月14日(水)
10時30分～12時00分

場所 小国まちづくりセンター

講師 センター職員
岡本主事
宮本(地区サポーター)

参加費 無料

オンラインショッピングについて学ぼう！
(ほほえみ会の中で開催します)

日時 1月21日(水)
10時30分～12時00(講座)
12時00～13時00(ランチ会)

場所 小国まちづくりセンター

講師 土屋 正隆 様
(日本ミックニヤ株式会社
あさひまわり工房 工房長)

参加費 300円(ランチ代)

・申込、お問い合わせは小国まちづくりセンターまで (44-0254)

参加申込書 参加する日付に○印をしてください

・名前 _____ 1月14(水)・1月21(水)

(3) フットサル教室の開催、応援ブックの配布

地域の子供たちの健全育成を目的とした活動として、金城地域の雲城小学校、今福小学校、波佐小学校の3つの小学校でフットサル教室を行った。

また小国地域の取り組みを知ってもらい、子供の将来を考えるきっかけ作りになればとの思いを込めて、ポルセイド浜田応援ブック作成の補助を行った。

フットサル教室を行った際に子どもたち一人ひとりに直接手渡しで配布した。



(4)波佐とんど祭りの開催、運営

1月12日(月)に波佐地域でとんど祭りを開催した。古いお守りやお札を神聖な火で浄化することで1年の災いや悪運を払うと考えられており、波佐地域の方々の幸せを祈願した。

また、地域交流会としてモルックを行った。子どもから大人までを一緒にしてチームを作り、それぞれのチームで実際のルールに従い試合を行った。円滑に進めるために、ルール説明や準備、片付けをサポートした。

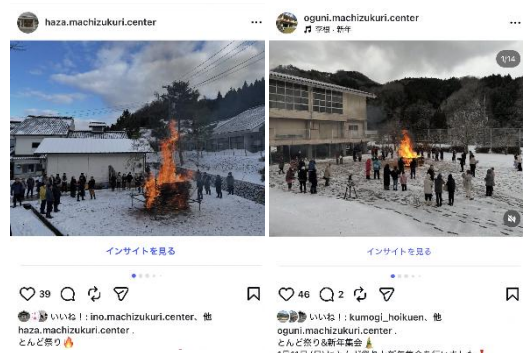
地域の方々の協力もありとても盛り上がった。



(5)インスタグラムでの情報発信

小国のインスタグラムは10月から引き継ぎ、波佐のインスタグラムは作られてなかったもので、地域外への魅力の発信を狙いに10月から開設して、それぞれのインスタグラムで情報発信を行った。

センターで何が行われているかを地域住民に情報共有すると共に地域外への魅力の発信を目的に情報発信することでフォロワーも少しずつですが増えてきており、地域の方々からの認知度も上がってきた。



5 今後の課題と目標

小国地域の人口は年々減少していき、高齢化率も現在で69%と高く5年後には72~74%と予想されているのが現状である。

そこで、今いる元気な高齢者を支援することはもちろんだが、関係人口、活動人口が増えるような取り組みをしていきたいと考えている。今年度の課題解決事業で取り組んだ桜公園を小国地域における交流の場にしていきたい。

波佐には行事ごとに参加したりしたが、それ以外ではあまり関わることはできなかった。来年度は地域おこし協力隊の方と協力していきながら波佐にも関わってきたい。また、小国と波佐が共同で行えるイベントを企画していきたい。

地域からの声

【小国地区】

昨年10月に地区サポーターとしてこれ、ちょうど課題解決事業の時期に地区の人と一緒に考えて頂き地区の人ができない事を進んで働いてくれるので地元住民はすごく助かっています。

また、小国で行っている行事を小国以外に情報発信していることに喜んでいます。農業を考える会にも参加して頂き、これからも地区の人との交流を望んでいます。

地域からの声

【波佐地区】

約6か月の期間中での評価ですが、人柄も良く誰もからも信頼され親しまれているようで、協力依頼した事項には積極的に最後まで取り組みをされる姿勢が伺え頼もしい限りです。

これからも地域の為に変わらぬ姿勢で地域に根差した活動をしてください。

05 今市地区まちづくり推進委員会

地区サポーター 藤本 宏征

地域の状況(R8.2.1 現在)

人口: 1,300人
世帯数: 689世帯
面積: 2,523.40ha
高齢化率: 32.62%

1 勤務地

今市まちづくりセンター

2 配置年月

令和6年4月～

3 活動内容

事業の企画・各種調整、SNS 情報発信、事務全般

4 活動の状況と成果

① 市民農園の管理

夏野菜づくり講習会の開催、周辺の草刈り、防護柵の点検整備を行った。全11区画が通年で満席となり、利用者同士の交流や余剰野菜の物配りなど、自然発生的なコミュニティが形成された。



(2) 地域交流イベントの企画・開催

- 土曜夜市(7月開催):今年度は島根県立大学生とのコラボ事業で、打ち合わせ、企画、準備に携わった。ステージイベントも盛り上がり、地域の人による出店で、にぎわいの創出が図られた。



- 敬老祝賀会(9月開催):和太鼓演奏、ものまね歌謡ショー、石見神楽など観て楽しめる敬老祝賀会を1年越しで企画した。参加者からは、「楽しかった」、「久しぶりに面白いものを観た」、「手をたたきすぎて痛い」などの声を多く得た。



(3) コミュニティカフェの企画・開店準備

令和7年10月に閉店した地区内唯一の喫茶店を地域みんなのコミュニティカフェに再生するため、建物の引受先探しや所有権移転のサポート、賃貸借契約などを行った。開店へ向け、なるべく



多くの人に関わってもらうため、店名の公募や公式 LINE を立ち上げ、リフォームボランティアの募集も行っている。

「みんなでやろう！」を合言葉に令和 8 年 3 月より、低予算でのリフォームに着手し、令和 8 年 5 月の仮オープンを目指す。

5 今後の課題と目標

- 課題：部会員の不足と若年層の巻き込みができていないこと。昨年度から取り組んでいる地域限定 SNS がバージョンアップ後、利用者が激減して機能していないこと。
- 目標：コミュニティカフェを「地域の居場所」および「まちづくり拠点」と位置づけ、多世代交流を促進することで、若年層を巻き込んだ持続可能なまちづくりを目指す。また、今年度開設した公式 LINE の登録者を増やし、情報発信をさらに強化する。

6 地区住民の声

- 野菜作りははじめてでしたが、夏には色々な野菜の収穫ができて楽しかったです。市民農園をはじめていただいて感謝しています。
- 土曜夜市の出店では材料の手配からリハーサル・当日の準備までお世話になりました(中学生有志)。
- 敬老祝賀会ではとても楽しい企画を考えて頂きありがとうございました。こんなに面白いなら有料でもいいので毎年開催して欲しいです。
- 喫茶カーブが閉店し、とても残念に思っていました。四つ葉振興会で再開すると聞き安堵しています。オープンするのをみんな楽しみにしています。

地域からの声

昨年度の『制度の導入・基盤整備』という段階から、今年度は『住民の笑顔や生きがいを生み出す』という、より質の高い地域づくりへと進化させてくれました。サポーターの存在が、まちづくり推進委員会の活動の幅を広げ、地域全体の活力を引き出す原動力となっています。

06 弥栄のみらい創造会議

地区サポーター 岡山 真梨

地域の状況(R8.2.1 現在)

人口: 1,027人
世帯数: 608世帯
面積: 10576.26ha
高齢化率: 53.46%

1 勤務地

弥栄支所 防災自治課
(安城・杵束まちづくりセンター)

2 配置年月

令和6年4月～

3 活動内容

活躍項目	具体的な活動内容
事業の企画、各種調整	事業の企画・運営
情報発信	SNSの管理、取材、掲載
事務全般	住民ニーズの把握

4 活動の状況と成果

(1) 「みんなで健康チャレンジ」の本格実施

人口減少や高齢化の進行により、住民同士の交流や外出の機会が少なくなっている。こうした課題を踏まえ、子どもからお年寄りまで幅広い世代が交流し、健康づくりと地域の活性化につなげることを目的として「みんなで健康チャレンジ」を本年度より本格実施を行った。実施方法を上期・下期の二期制とし、参加機会の拡充を図った。

その結果、参加者はのべ237名となり、前年の181名から増加した。対象イベントについては、弥栄町内で開催される「弥の朝市 や市」、「ふるさと体験村クリーンデー」、「弥栄町運動会」、「モルック大会」などへと拡充した。

本事業により、地域行事への参加機会の創出および外出機会の増加につながった。



(2) SNS を活用した情報発信の強化

弥栄では人口減少が進む中、地域外への認知度向上や関係人口の創出が課題となっている。こうした背景を踏まえ、広域へ情報を発信できる手段として SNS を活用し、弥栄町

の情報発信の強化に取り組んだ。

Instagram を中心に、弥栄町の情報発信強化に取り組み、定期的な投稿および各アカウントの連携運用を行った。

イベント開催時期等にあわせて必要に応じて有料広告も活用し、広域への認知拡大を図った。情報発信の強化により各事業の認知度向上につながり、秘境奥島根やさかうltraマラニックでは応募者 306 名と過去最高のエントリー数を記録した。SNS を通じた問い合わせが増加するなど、情報発信が実際の参加・来訪につながる動きが見られた。



・Instagram アカウント別 フォロワー数の推移(令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 2 月 28 日現在)

アカウント名	R7.4.1 現在	R8.2.28 現在	増加数	増加率
弥栄のみらい創造会議	541 名	903 名	+362 名	約 67%増
弥栄の朝市 や市	470 名	982 名	+512 名	約 109%増
やさかうltraマラニック	582 名	1,158 名	+576 名	約 99%増

(3) 地域支え合い事業

弥栄では高齢化の進行に伴い、高齢世帯を中心に自宅周辺の草刈りなど景観維持が難しくなっている状況が見られる。こうした住民ニーズを踏まえ、住民相互の助け合いによる活動を推進し、弥栄地域において安心して住み続けることができる環境づくりを目的として本事業に取り組んだ。

前年度は提携先の確保が難しく、事業実施に至らなかったが、本年度は新たな提携先を確保し、関係機関との協議を重ねた結果、草刈り支援を内容とする地域支え合い生活支援事業を実施することができた。

事業開始にあたり、実施体制の整備および運用方法の整理を行い、地域内での生活支援の仕組みを構築した。

(4) やっぴーを使った弥栄の PR

弥栄のキャラクター「やっぴー」を活用し、日常生活の中で弥栄を身近に感じてもらう機会を増やすことを目的として、地域 PR の強化に取り組んだ。

本年度は、やっぴーの LINE スタンプを 2 種類制作した。うち 1 種類は弥栄フォトコンテストの作品を活用し、地域の写真資源と連動させた内容とした。

また、やっぴーをデザインに使用したポロシャツおよびスポーツタオルを制作し、地域イベント等において販売を行った。キャラクターを活用したグッズ展開およびデジタルコンテンツの制作により、やっぴーの認知向上および弥栄の PR 機会の拡充を図った。



5 今後の課題と目標

今後は、SNS の発信をさらに強化し、現在は島根県内からのアクセスが中心となっている状況から、県外へも広げていきたいと考えている。

また、弥栄のみらい創造会議のホームページの充実を図り、SNS と連動した情報発信を行うことで、弥栄の魅力や地域の取組をより分かりやすく発信していきたい。SNS では弥栄の情報を身近に感じてもらい、興味を持ってもらう入口とし、ホームページでは弥栄のインフラや暮らしに関する情報など、より詳しい内容を確認してもらええる場として活用していきたい。こうした発信を通じて、や市などの地域イベントへの参加や弥栄への関心につなげ、関係人口の増加を図っていききたい。

あわせて、これまで大切にしてきた弥栄の良さを守りながらも、新しい視点や方法を取り入れ、地域にとって前向きな変化を生み出していきたい。情報発信と地域の声の両方を大切にしながら、地域行事への参加機会の創出や住民同士のつながりづくりにつなげ、弥栄のこれからにつながる取組を積み重ねていきたい。

地域からの声

岡山地区サポーターの活動について、まちづくりセンターや弥栄のみらい創造会議と密接に連携し、様々な活動に貢献してくれている。また SNS を活用した情報発信に長けており成果を上げている。地域にも存在を知られて来ており、さらなる活躍を期待している。

7 岡見地区まちづくり推進委員会

地区サポーター 齋藤 玲子

地域の状況(R8.2.1 現在)
人 口: 1,009人
世 帯 数: 545世帯
面 積: 1360.90ha
高齢化率: 46.58%

1 勤務地

岡見まちづくりセンター

2 配置年月

令和7年4月～

3 活動内容

活動項目	具体的な活動内容
事業の企画、各種調整	委員会事業(各部会、わくわくマーケット等)の支援 あいのりタクシーの運用、利用促進 まちづくりセンターとの連携
情報発信	SNS 開設
事務全般	会計事務、補助金等交付申請・実績報告 役員会等の資料作成 住民ニーズの把握

4 活動の状況と成果

(1) あいのりタクシー事業の運行開始

既存の公共交通の不便さや、買い物等に困っている高齢者の声などもあり、今年度より「あいのりタクシー事業」に取り組むこととした。

通院、買い物などでの利用や、サロン活動などでの利用もあり、利用者からは「とても助かる」との声がある。また、6月よりは、買い物支援として月に2回、浜田方面と益田方面のスーパーなどへ「お出かけ便」の運行を開始。買い物だけでなく「車内でのおしゃべりなどが楽しい」など、高齢者の孤立防止にも役立っていると感じる。



(2) わくわくマーケット(買い物支援)の実施

令和7年度で事業開始より9年目を迎え、買い物に不自由している方々に喜んでもらっている。また、住民の交流の場、高齢者等の安否確認の場としても役立っている。さらに、スタッフとして関わっている人たちの居場所づくりにも繋がっていると感じる。



(3) 情報発信

地域の情報を多くの人へ知らせるために、SNS を開設。

SNS を活用することで、地域活動やまちづくりに関心が薄くなりがちな若い世代や、地域外へもタイムリーな情報や地域の活気を届けられることが期待できる。

5 今後の課題と目標

あいのりタクシー事業を多くの人に利用してもらえるように、様々な場で説明をして行きたい。

わくわくマーケットでは来店客の固定化、高齢化が進んでいる。さらに、スタッフの高齢化も進んでいるので今後の運営が課題となる。

情報発信については、SNS を開設したばかりで手探り状態なので活用を進めて行きたい。

地域からの声

- ・まちづくり推進委員会とまちづくりセンターのつなぎ役として活動してもらうことで連携がとりやすく、地域活動の活性化につながったと思います。
- ・あいのりタクシー「お出かけ便」を地区サポーターさんに勧めてもらったお陰で、買い物で重たい荷物を抱えて自宅まで移動することなく、大変重宝しています。これからも地域のために活動してほしいです。

08 三保地区まちづくり推進委員会

地区サポーター 森井 照美

地域の状況(R8.2.1 現在)

人口: 1,513人
世帯数: 759世帯
面積: 686.27ha
高齢化率: 45.67%

1 勤務地

三保まちづくりセンター

2 配置年月

令和7年4月～

3 活動内容

活動項目	具体的な活動内容
事業の企画、各種調整	あいのりタクシーの調整、運営 すまいるマーケット運営補助
情報発信	チラシの作成
事務全般	会計事務 役員会、部会出席、資料作成

4 活動の状況と成果

(1) あいのりトライアル便の利用拡大

地区内唯一のスーパーが閉店したことで、車を運転しない住民の買い物手段の対応策として事業を開始しました。チラシの各戸配布と自治会のサロンに出向き広報活動をしました。利用者にも聞き取りをし、運行する曜日を変更することで利用が増え、変更後の新規の利用が継続に繋がっています。



(2) 「第13回石州和紙灯ろうまつり」の実施

三隅小学校(6年生)と道の駅ゆうひパークみすみに出向き灯ろう制作をしました。三隅町内のまちづくりセンターや保育所、住民の皆さんに制作していただいた670個の灯ろうを灯し、昭和58年豪雨災害の伝承活動をしました。灯ろう文字を作るため灯ろうの数を作っていましたが、今後は防災の視点を取り入れ、地域コミュニティの強化を図りたいです。



(3)「三保なべフェスタ」の開催を通じた多世代交流

希薄になりがちな地域内の交流を深め、地元の食の魅力を再発見することを目的に開催しました。

当日は、地区の子どもたちが育てた野菜や、市水産振興課の事業を活用した「アジのつみれ」、伝統の手作り味噌を使用するなど、地産地消にこだわった内容となりました。学生ボランティアの協力もあり、世代を超えた実りある交流の場となっただけでなく、地元の美味しさを共有する貴重な機会となりました。

今後も、地域住民の参加の輪を広げる大切な交流の場として継続を目指します。



(4) センター整備・石州和紙の活用

地域住民の憩いの場を作りたい、地元の特産品である石州和紙を身近に感じてほしいという想いで、図書室を整理し、分類表示などを石州和紙で創作しました。部屋が使いやすくなり、温かみのある図書室になりました。

今後もセンター整備を継続し、石州和紙を取り入れていきます。



5 今後の課題と目標

まちづくり委員の多くは平日の活動が困難な委員も多いため、SNSによる情報共有や作業の細分化を行い、無理なく参加できる体制を整えます。

まちづくり活動や交流事業に対して地域住民の興味関心が少なく、また親同士の繋がりが希薄だと感じています。アンケート調査やヒアリングによりニーズ把握を行い、参加の輪を広げていきます。

図書室を住民の憩いの場として利用していただけるよう、さらに工夫していきます。

地域からの声

あいのリトライアル便の運行の曜日を、希望を聞いて変更してくれたので利用できるようになりました。買い物が楽になり嬉しいです。今後もお願いします。

09 三隅地区まちづくり推進協議会

地区サポーター 早川 良子

地域の状況(R8.2.1 現在)

人 口: 1,576 人
世 帯 数: 810 世帯
面 積: 1986.30ha
高齢化率: 41.12%

1 勤務地

三隅まちづくりセンター

2 配置年月

令和7年4月～

3 活動内容

「第4次三隅地区まちづくり計画」の策定及び策定に係る事業の創出

4 活動の状況と成果

(1) 「第4次三隅地区まちづくり計画」の策定

地域が目指す将来像を「笑顔で安心！誰もが主役のまちづくり」と定め、その実現に向けた歩みを示す副題として「みらいの種をまき、まなびの庭で共に、あんしんの樹を育てよう」を掲げる。

○組織の再編成

- ・ 創立から15年続く「三隅地区まちづくり推進協議会」をより多くの方が団体に加入しやすいよう、協議会という名称を見直し、住民投票により「まちカツ！みすみ」へ変更した。
- ・ 事業の重複をなくし、地域課題の分野をより明確にするため、部会を5つから3つへまとめた。また、地域が目指す将来像への歩みを示す副題を部会名にすることで、事業の意図や目標が明確になり、委員間での共通理解が深まるようにした。

☆地区サポーターとしての役割

計画策定プロセス全体を丁寧にデザインし、地域の方が主体的に参加できる環境づくりを実現した。グループワークを通じて、まちづくりへの共通理解を育み、「身近な行動もまちづくりにつながる」という前向きな意識変化を促した。また、“ひらかれた組織”という新たな方向性を提示し、組織の再編に向けて、地域の方の合意形成を自然に導いたことで、持続可能な組織運営が今後期待できる。



(2) 計画策定に係る事業の創出

子どもまちづくり委員会

次世代の担い手の裾野を広げることを目的として、地域の中学生を対象に「子どもまちづくり委員会」を結成。

○体験イベント「つなげる三隅」の実施

「自然豊かな三隅の良さを地域の人と守り、学び、繋げる」ことを目的として、中学生が学んだ三隅の魅力を地域の方へ体験活動を通して還元するイベントを実施した。

☆地区サポーターとしての役割

単なる進行役にとどまらず、事業企画の全過程に寄り添い、子どもたちが自ら課題を見つけ、考え、形にしていけるよう丁寧に後押しした。その結果、企画は“やらされる活動”ではなく“自分たちがつくる事業”として主体的に取り組む姿勢が育まれた。



5 今後の課題と目標

新組織を基盤として、地域の特性や資源を丁寧に掘り起こし、それらを活かした事業の創出と推進に取り組む。

地域からの声

「第4次三隅地区まちづくり計画」

- ・委員からのアンケート結果をもとに、事業の現状評価と組織体制の課題を整理し、組織の再編を行ったことが良かった。
- ・多様な世代の意見をグループワークで丁寧に集め、計画に反映しているところが良い。
- ・地区サポーターがただ会議を進めるだけでなく、私たちの気持ちを汲み取りながら丁寧に進行してくれたから、自然と“かわってみよう”という気持ちになりました。

「子どもまちづくり委員会」

- ・自分たちで考えた企画がみんなに喜んでもらえて嬉しかった。
 - ・地域の皆さんと楽しく交流できて良かった。
- 【参加者】・三隅の良さが伝わる素敵なイベントだった。
・中学生の皆さんが親切だった。これからも続けてほしい！

10 黒沢まちづくり委員会

地区サポーター 杖田 早由里

地域の状況(R8.2.1 現在)

人 口: 202 人

世 帯 数: 114 世帯

面 積: 4022.83ha

高齢化率: 61.88%

1 勤務地

黒沢まちづくりセンター

2 配置年月

令和 6 年 4 月～

3 活動内容

活動項目	具体的な活動内容
事業の企画、各種調整	イベントの支援
事務全般	収益事業の管理運営 ・会計事務 ・給与管理 ・税金納付 住民ニーズの把握
あいのりタクシー買物便	周知、予約確認、添乗

4 活動の状況と成果

(1) あいのりタクシー事業の運行開始 令和6年4月～

黒沢地区には店舗が無いいため、住民は8km以上離れた町まで買物に行く。移動手段が無い人は公共交通に頼っているが、バスは運行本数も少なく、曜日、祝日には時刻も変わる。タクシーは高額の上、呼んでから到着するまで30分以上かかるという現状。こうした「公共交通の空白」に困る地域の声を少しでも解消できるようにセンターで買い物ができる「はつらつマーケット」事業を開始、あいのりタクシーで利用者の送迎を始めた。



さらに利用者から「地元の店には売ってない〇〇」「自分で持ち運べない〇〇が買いたい」等の声があり

令和7年6月～

毎月1回「ナフコ・トライアル便」開始

車内では会話がはずみ、貴重な情報交換の場となっている。



<今後の目標>

岡見の山根病院に通院するバスの乗り継ぎが非常に悪い、おさだ眼科は浜田駅から遠くて歩くのが大変という声があり8年度は聴き取り調査又はアンケートを実施して通院便を企画する。

(2) <ちい助弁当・福祉弁当>

定期:毎週水曜日

随時:予約注文(主に団体向け)

○福祉弁当

不規則な食事になりがちな高齢者の健康維持のため栄養バランスのとれた食事を提供する。

独居高齢者の見守り活動として配達時の様子や気づきをチェックシートに記録。不在の場合又は体調不良の際は家族に連絡する。活動に携わる調理員、配達員の皆さんがやりがいを感じて活動している。



- ・調理室の備品消耗品管理、衛生管理
- ・弁当容器等の物品調達
- ・事務全般(出納・給与・源泉・納税)

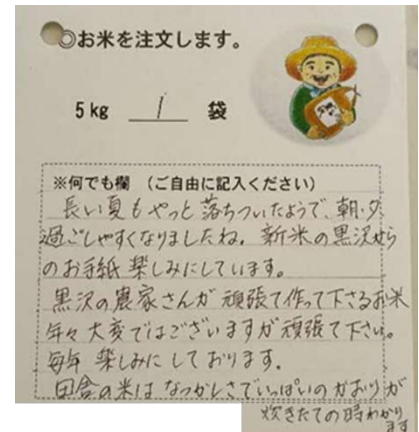
(3) <“いいね、黒沢”米販売>

物価高騰、異常気象、後継者不足の中、米作りを取りまく環境は年々厳しさを増している。

豊作、不作にかかわらず、安定した価格で米を買い取ることで生産者を支援する。また、各地の出身者から届く応援メッセージも大きな励みになっている。

今年度の出荷作業は9月～12月までで5回。担当部会の委員の中には現役農家さんもしれば、一昔前まで頑張っていた農家さんもいる。

米作りの大変さをよく知っている人々が地元県外を問わず繋がりをもち続ける場としてもこの活動は続けていきたい。



- ・出身者に向けて情報発信、予約管理、販売、発送
- ・株式会社キヌヤへ納品
- ・事務全般(出納・給与・源泉・納税)



5 今後の課題と目標

先日、敬老福祉乗車券のことを知らない方がいた。普段は自分で運転するため関心を持っていなかったそうだ。行政のサービスもまちづくり委員会の活動も知らないという意味がない。地域の人にわかりやすくお知らせして気軽に利用できるような取り組みを考えていきたい。

地域からの声

あいのリタクシーのおかげで畑づくりに必要な土や肥料、季節の野菜の苗が買えるし、トイレトーパーや調味料とか持ち運びに苦労するものが簡単に買ってとても助かる。身体が動く限り野菜づくりは続けたい。

92歳一人暮らしだが猫のおかげで寂しくない、毎月1回あいのリタクシーで猫の餌をまとめ買いできるので安心して猫と過ごせる。

小さい頃からよく知ってるから何でも話しやすい。気兼ねなく困ったことも相談できるから助かる。

11 まちづくり推進委員会 INO

地区サポーター 三浦 聖二

地域の状況(R8.2.1 現在)

人口: 493人
世帯数: 300世帯
面積: 3,853.44ha
高齢化率: 65.52%

- 1 勤務地
井野まちづくりセンター
- 2 配置年月
令和6年4月～
- 3 活動内容

活動項目	具体的な活動内容
事業の企画・各種調整	井野つ地号運行に伴う調整・連絡 各種イベントの企画調整 新規事業の企画実施(地域支え合い生活支援事業)
事務全般	部会・役員会その他関係会議に伴う事務全般 井野地区公共交通運営委員会(会計含む) 関係団体事務 (井野端委員会・井野地区福祉推進協議会)

4 活動の状況と成果

(1) 地域支え合い生活支援事業(草刈りサポート事業)の実施(新規事業)

<背景>

地区内約300世帯の内約80世帯が独居高齢者という状況下で、自宅周辺の草刈りが間に合わず、夜も眠れないと訴える方がいるような状況があり、草刈り支援への要望が強かったことから、助成金を活用した事業を組み立てた。

<仕組み>

総作業時間300時間を想定し、実施団体の確保は地区内の営農組合や集落環境保全組合など農業関係組織を中心に依頼し、住民周知はチラシの全戸配布、

まちづくり推進委員会INOから
お知らせ

利用対象は
70歳以上の世帯

草刈りのお手伝い

利用条件*同居家族全員が70歳以上の世帯 **始めます!!**

利用料金*1人役1時間あたり**750円**

注意点 *2~5人までの作業員が半日以内に終了できる範囲に限ります
*業種協定等の対象農地での草刈り作業はできません
*刈った草を集める、捨てる、焼くなどの作業は行いません

実施期間*11月末まで、または総利用時間300時間
運するまで

申込み・問合せは*井野まちづくりセンターへ
☎ 34-0007

◎作業はまちづくり推進委員会と契約を交わした「草刈り協賛」に行ってください。
◎作業終了後、作業人数と所要時間を確認し、利用料金を請求させていただきます。

この事業は浜田市の「地域支え合い生活支援事業補助金」及びまちづくり推進委員会の財源を活用して、利用者の方に安く利用していただけるよう利用料金を設定しています。

自治会長への事業説明を行った。利用料は個人負担1時間あたり750円とし、助成金、まちづくり総合交付金を活用することで、作業協力者へは1時間あたり1,500円を支払うこととした。

<結果>

実施団体としては、「草刈応援隊」1団体の手上げにより協定を交わした。利用希望者は17名となり、内独居高齢者15名、内12名が女性利用者、実作業時間は300時間となった。

全ての利用者から感謝の言葉をいただき、次年度以降は春、秋2回実施し総作業時間600時間を設定して進めることとしたい。そのためにも作業協力者の増強が不可欠となる。

(2) その他の事業

① ひまわり園の管理

春から計画的に管理しなければならず、特定の人だけの作業にならないよう配慮し、地域やまちづくりのシンボリックな取り組みであることを地域全体に浸透していくよう努めた。残念ながら天候の影響により開園期間は短期で閉園せざるを得ない状況だったが、今期の反省を次年度に活かそうとまちづくり



委員から積極的な意見をいただいている。地区サポーターとしては各作業日程の調整、人員の確保、ひまわり園開園期間中は朝夕の機材等運搬や寄付金の管理を行った。地区サポーター自身も作業員の一員として参加委員と一緒に汗を流すことを大切にしていきたいと考えている。

② 井野の夏まつりの開催

若い世代を中心として取り組み、10年継続している事業でありお盆に定着した事業として認知され、多くの帰省客でにぎわっており、今後もより発展的に継続していきたい。地区サポ



ーターとしては実行委員会全体で主体的な運営協力が得られ、円滑な運営ができるよう準備、調整に努めた。

③井野っ地号の運行(交通空白地有償運送の継続実施)と利用促進事業

平成30年4月の事業開始から7年が経過し、地域住民にとってなくてはならない交通手段として認知され利用されているが、人口減少と共に実利用者、利用便数が減少傾向にあり、当年度から新規利用増を目標とした「ナフコ・トライアルへ年末お買い物便」を運行し、利用料無料でのお試し利用を実施した。実際のご利用は4名であったが内1名は未登録の方であり、「迎えに来て、帰りは家まで送ってもらえて良いね」と感想をいただき、今後のご利用へ期待できる結果となった。次年度以降も盆前、年末の2回程度実施し、新たな利用を促進していきたい。



5 今後の課題と目標

令和7年度は従来からの事業をより充実したものとなるよう、各事業を所管する部会との報連相を大切にしながら進めてきた。部会や事業に欠席しがちな委員へも情報提供を怠らず今後も根気強く声掛けをしながら参画へ促していきたい。

令和8年度は第3期まちづくり計画の策定年度にあたることから、住民の意識調査を丁寧に行い、部会等を通じた計画の集約にしっかりと取り組み、井野地区の新しい未来計画の取り纏めを進めていきたい。

地域からの声

井野地区が抱える課題に、地区サポーターが寄り添って活動してくれ、心強く感じています。草刈りサポート事業も実現につなげていただき、大変助かりました。これからもまちづくりセンターと一緒に、地域の私たちのためによりしくお願いします。

4.浜田市集落支援員設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、過疎高齢化が進む中山間地域等において、集落の維持・活性化を推進するため、過疎地域等における集落対策の推進要綱(平成25年3月29日付総行応第57号、総行人第8号、総行過第11号。以下「推進要綱」という。)に基づき、浜田市集落支援員(以下「支援員」という。)を設置することに関し、必要な事項を定めるものとする。

(身分)

第2条 支援員の身分は、地方公務員法(昭和25年法律第261号)第22条の2に規定する会計年度任用職員とする。

(資格)

第3条 支援員の資格は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 心身ともに健康な状態で、かつ、誠実に職務ができること。
- (2) 集落の実情に精通していること。
- (3) 集落の維持・活性化に熱意と意欲を有すること。
- (4) 第5条に規定する職務の遂行に必要な識見と技能を有すること。

(任用)

第4条 支援員は、前条に規定する資格を有する者の中から、市長が任用する。

2 支援員の任用期間は、1年以内とする。

3 前項の規定にかかわらず、任命権者が公務の運営上特に必要と認める者については、再度の任用をすることができる。

4 前3項に定めるもののほか、支援員の任用に関する事項は、浜田市会計年度任用職員の任用等に関する規則(令和2年3月31日規則第14号)に定めるところによる。

(職務)

第5条 支援員の職務は、次の各号に掲げる活動への従事とする。

- (1) 集落の巡回及び状況把握に関する活動
- (2) 集落の課題に関する話し合いの促進に関する活動
- (3) 集落の課題解決に向けた事業の推進に関する活動
- (4) 関係機関との連絡調整に関する活動
- (5) 前4号に掲げる活動のほか、市長が必要と認める活動

(報酬等)

第6条 支援員の報酬、手当及び費用弁償については、浜田市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例(令和元年9月30日条例第19号)で定めるところによる。

(勤務条件)

第7条 支援員の勤務時間及び休暇等の勤務条件については、浜田市会計年度任用職員の勤務時間、休暇等に関する規則(令和2年3月31日規則第16号)で定めるところによる。

(解嘱)

第 8 条 市長は、支援員が次の各号のいずれかに該当するときは、解嘱するものとする。

- (1) 疾病等のために職務の遂行が困難であると認められるとき
- (2) 自己の都合により、解嘱を申し出たとき
- (3) 活動の状態が不適切であると認められるとき
- (4) 支援員としてふさわしくない行為があったとき

(その他)

第 9 条 この要綱に規定するもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。